

Fig.21 DMB-NeuGc ($r=0.9998$) 及び DMB-NeuAc ($r=0.9995$) の回帰直線.

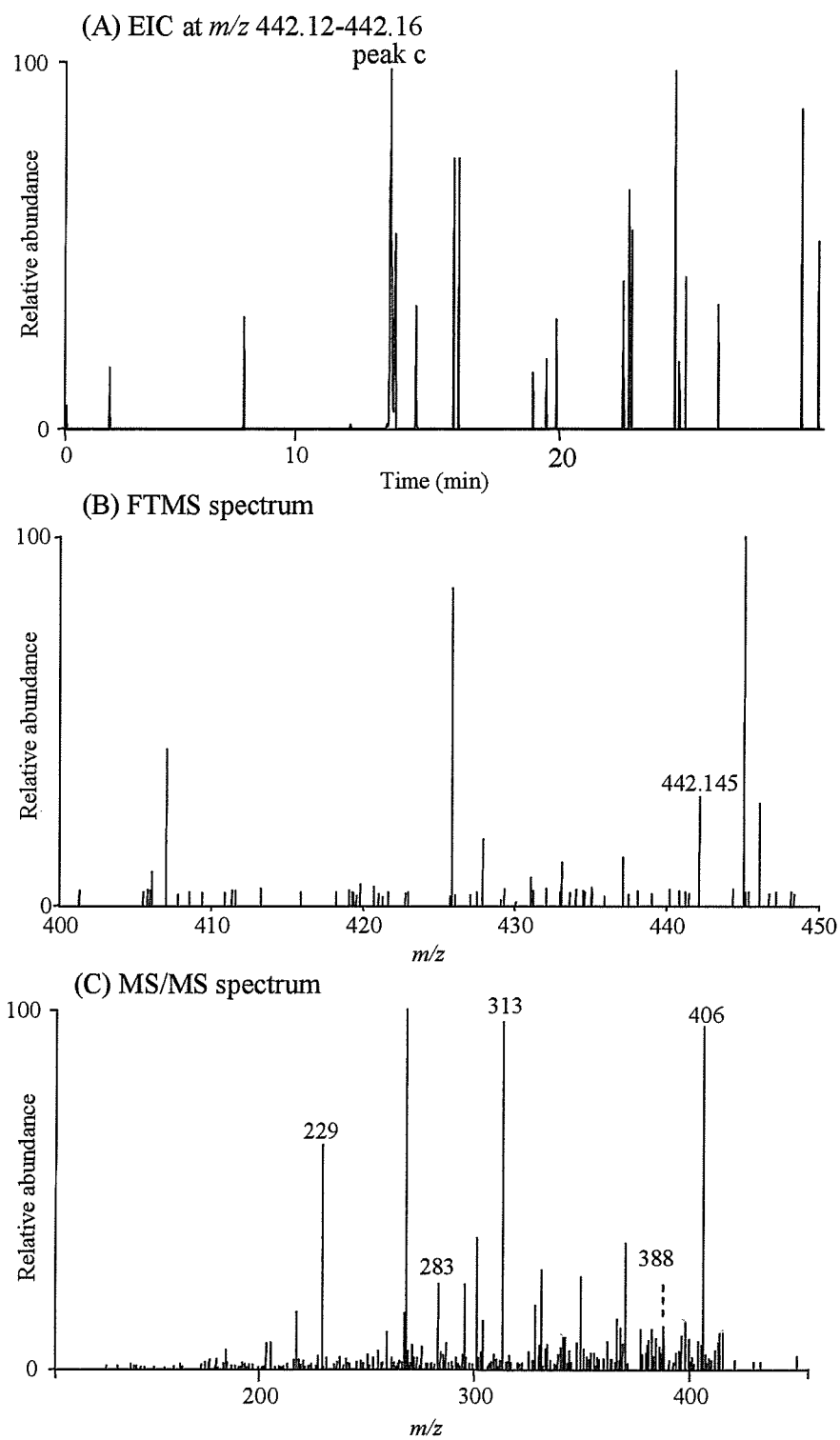


Fig.22 10% FCS 添加培地で培養したHL-60 細胞 (2.5×10^3) 膜画分由来DMB-NeuGcの検出. (A) SIM によって得られたEIC (m/z 442.12-442.16). (B) peak c のマススペクトル, (C) peak c で検出された $[M+H]^+$ (m/z 442.145) のMS/MS スペクトル.

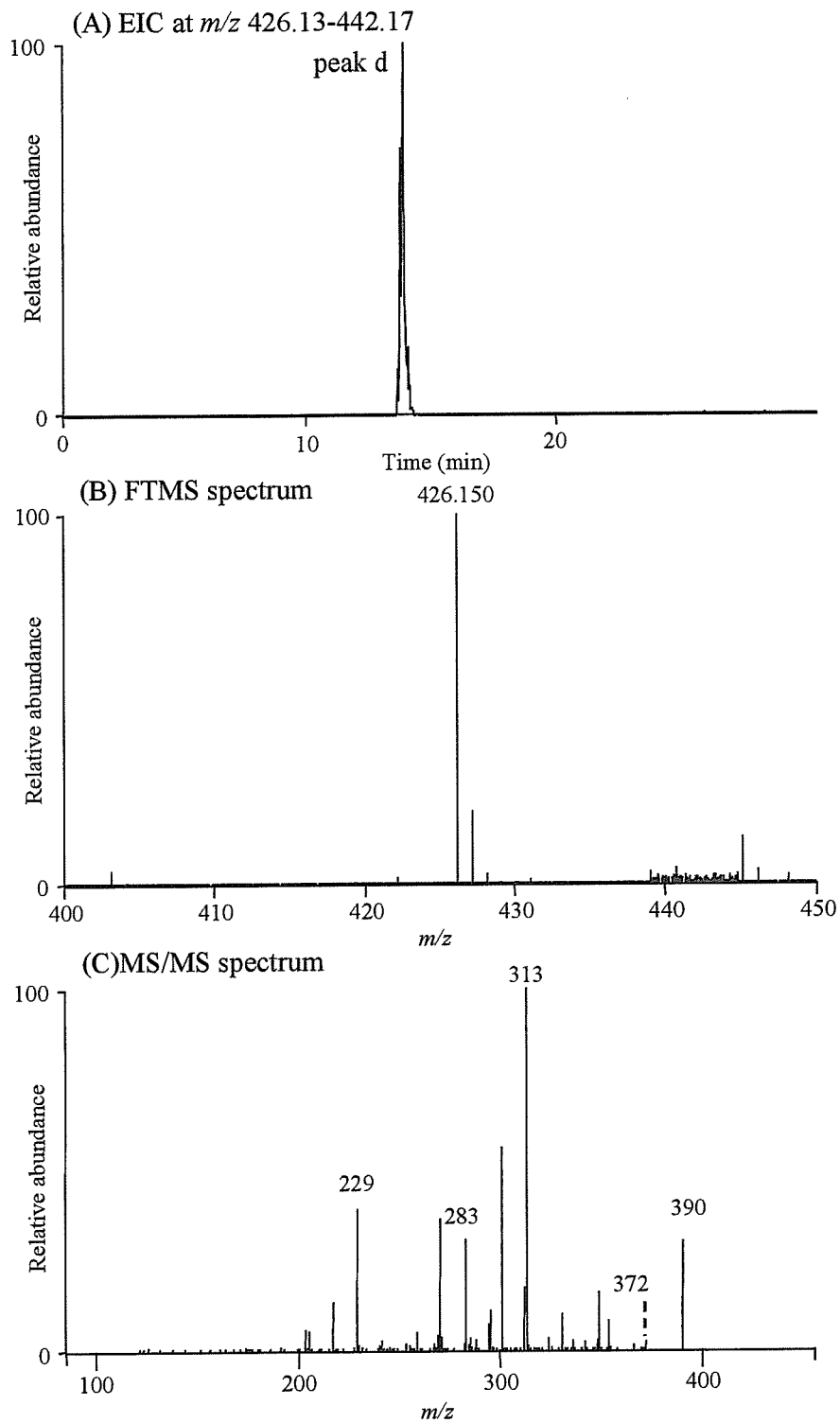


Fig.23 10% FCS 添加培地で培養したHL-60 細胞 (2.5×10^3) 膜画分由来DMB-NeuAc の検出. (A) SIM によって得られたEIC (m/z 426.13-426.17). (B) peak d のマススペクトル, (C) peak d で検出された $[M + H]^+$ (m/z 426.150) のMS/MS スペクトル.

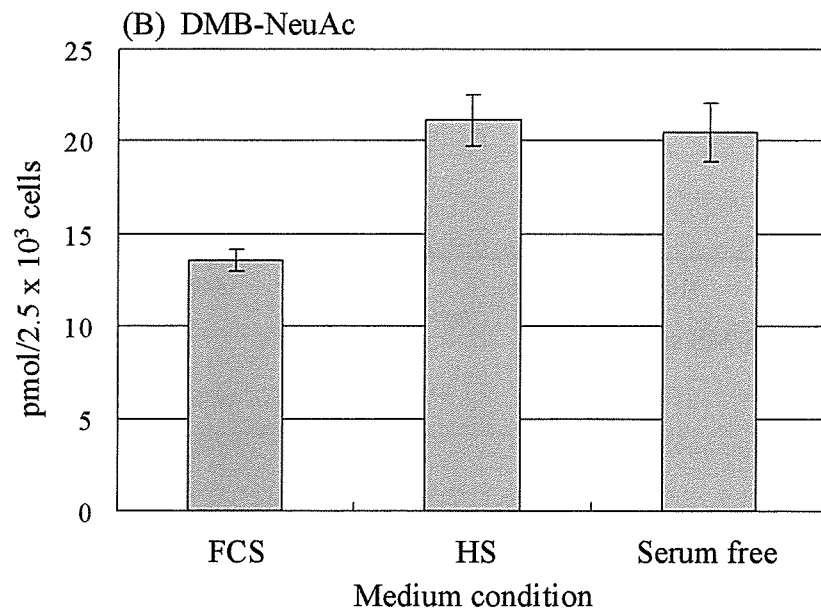
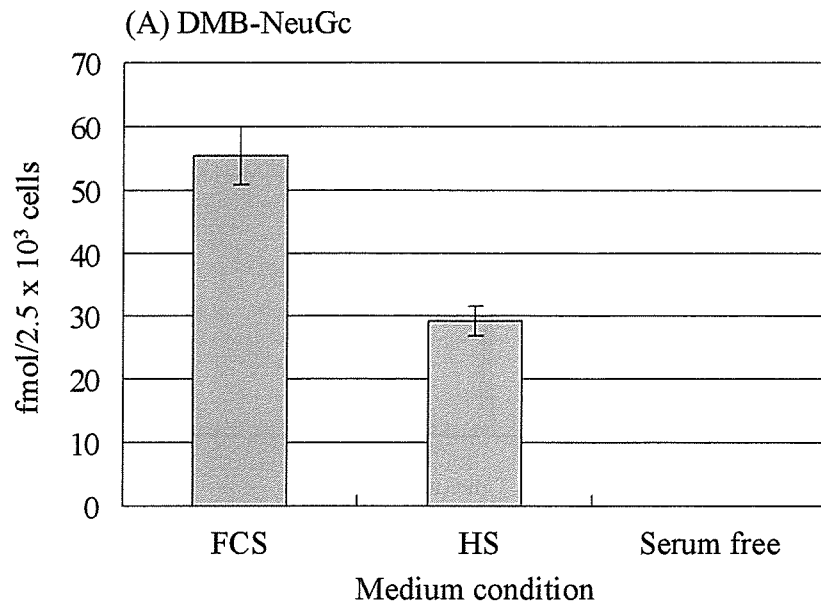


Fig.24 10% FCS, 10% ヒト血清 (HS) 及び無血清培地で培養した HL-60 細胞 (2.5×10^3) 膜面分由来 (A) NeuGc 及び (B) NeuAc の定量。数値は平均値 \pm S.D. として示す (n=3)。

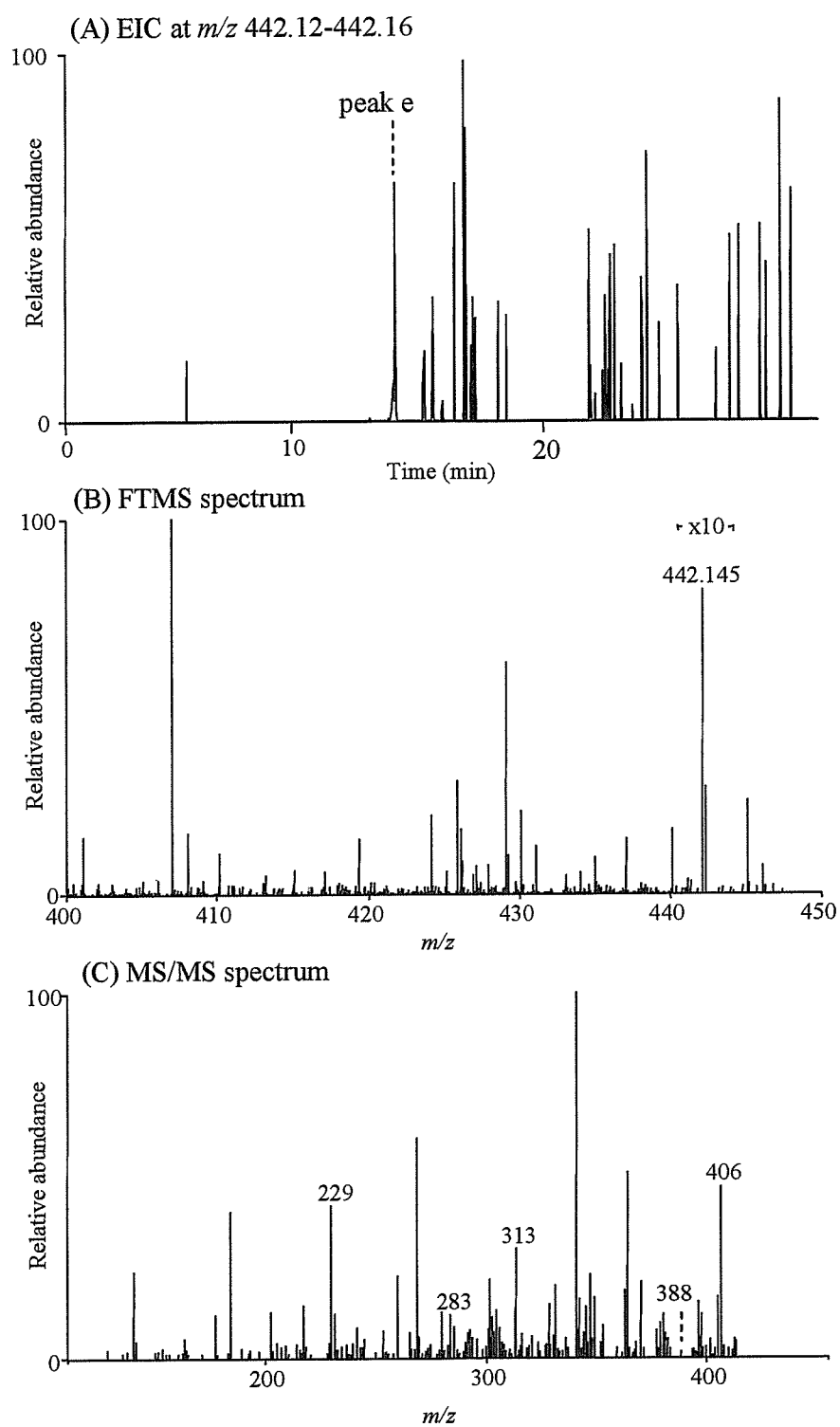


Fig.25 10% ヒト血清 添加培地で培養したHL-60 細胞 (2.5×10^3) 膜面分由来DMB-NeuGeの検出. (A) SIM によって得られたEIC (m/z 442.12-442.16). (B) peak e のマススペクトル, (C) peak e で検出された $[M + H]^+$ (m/z 442.145) のMS/MS スペクトル

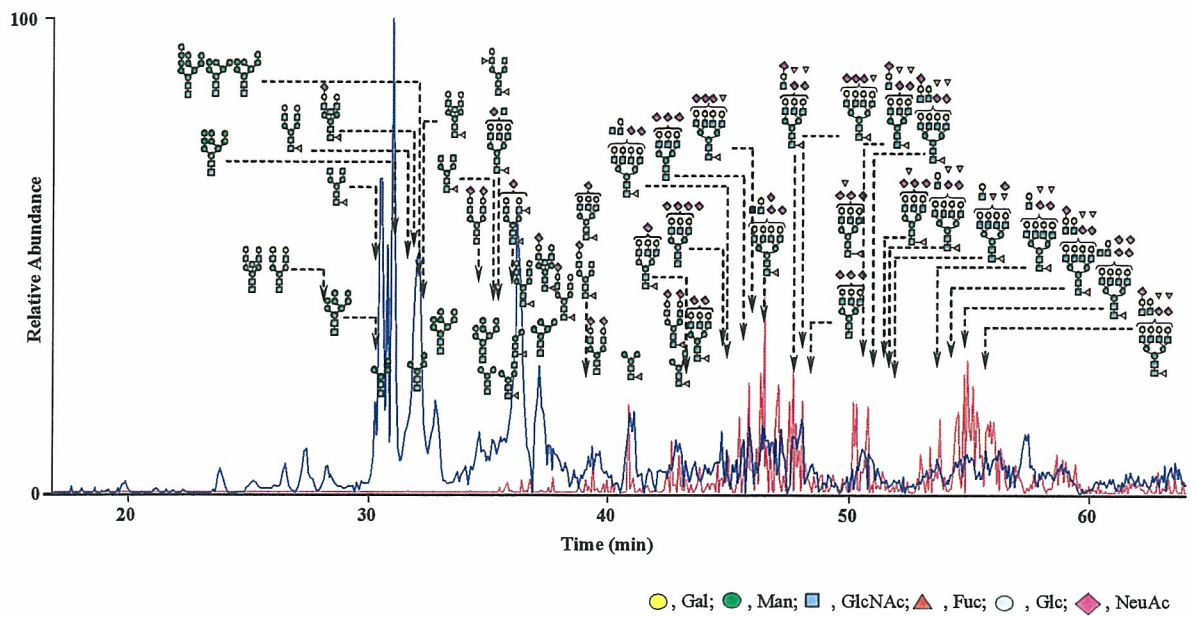


Fig. 26 FCS添加培地で培養したHL-60 細胞 の糖鎖プロファイルと糖鎖推定構造.
 青：ポジティブイオンモード；赤：ネガティブイオンモード

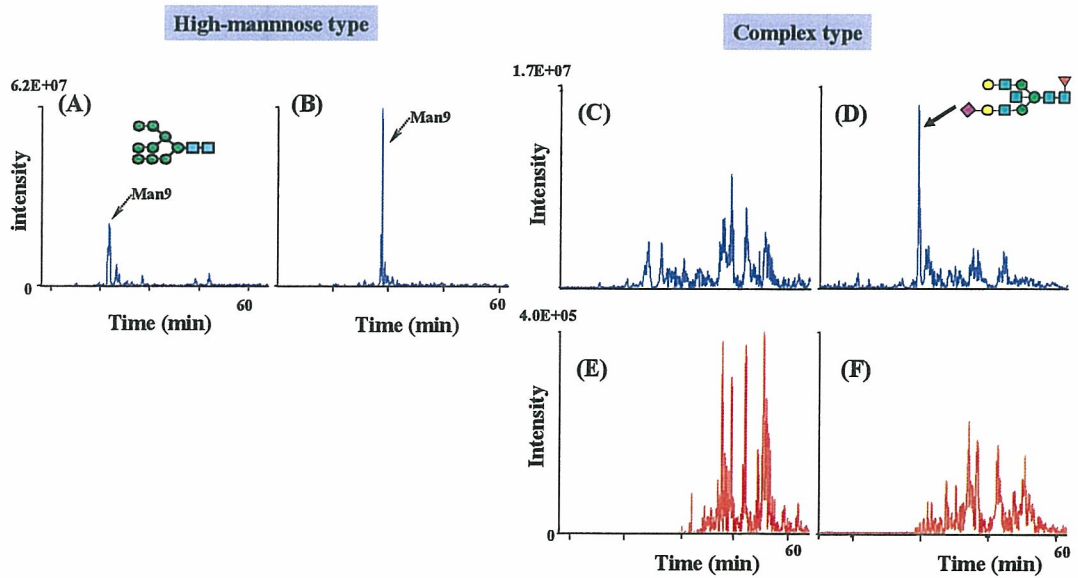


Fig.27 ヒト血清 (HS) 添加培地及び無血清培地で培養した HL-60 細胞 の糖鎖プロファイル. (A) HS 添加培地で培養した細胞の高マンノース糖鎖プロファイル. (B) 無血清培地で培養した細胞の高マンノース糖鎖プロファイル. (C) HS 添加培地で培養した細胞の複合型糖鎖プロファイル(ポジティブイオン測定). (D) 無血清培地で培養した細胞の複合型糖鎖プロファイル(ポジティブイオン測定). (E) HS 添加培地で培養した細胞の複合型糖鎖プロファイル(ネガティブイオン測定). (F) 無血清培地で培養した細胞の複合型糖鎖プロファイル(ネガティブイオン測定).

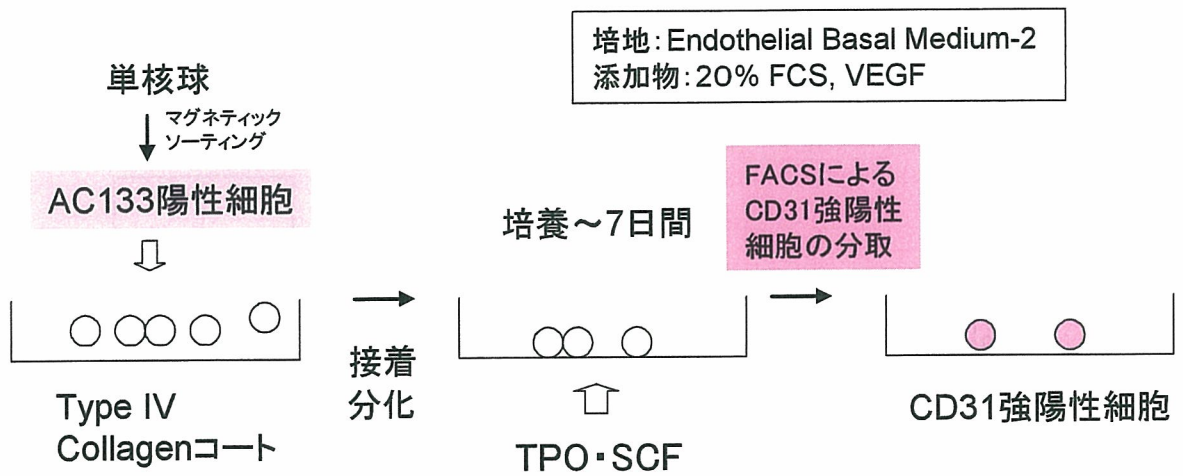


Fig.28 AC133陽性細胞からのCD31強陽性細胞の誘導

A. SCF・TPO存在下のAC133陽性細胞から出現するCD31強陽性細胞分画の変化
B. SCF・TPO存在下のAC133陽性細胞から出現するCD31強陽性細胞の絶対数

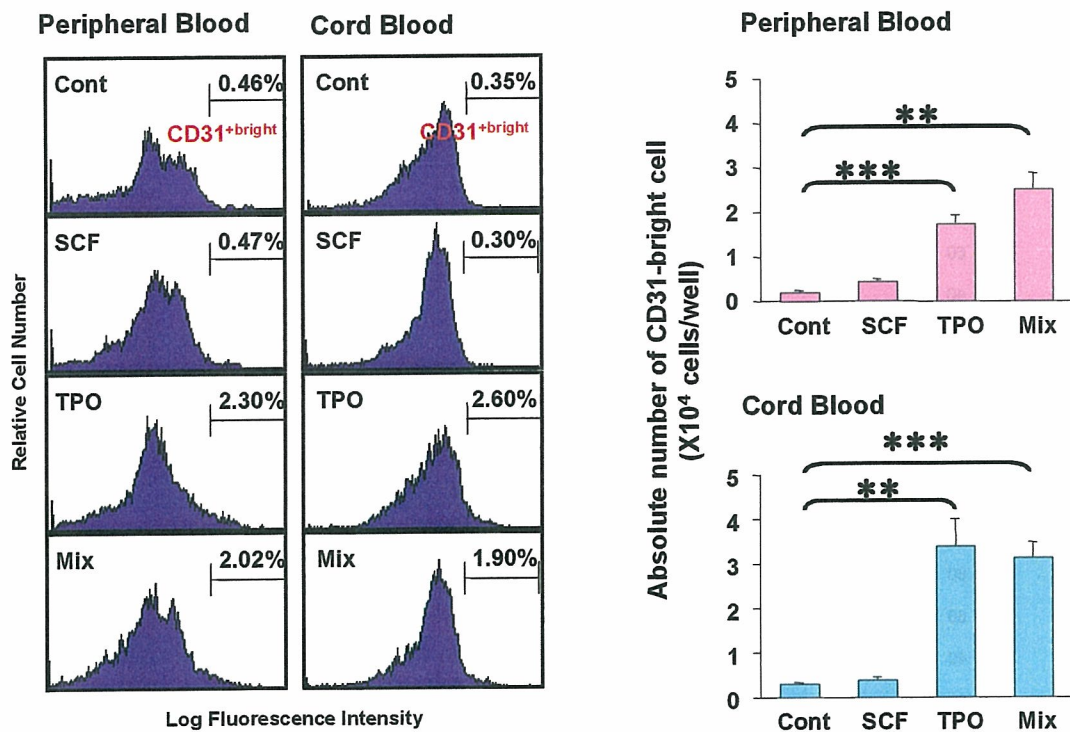
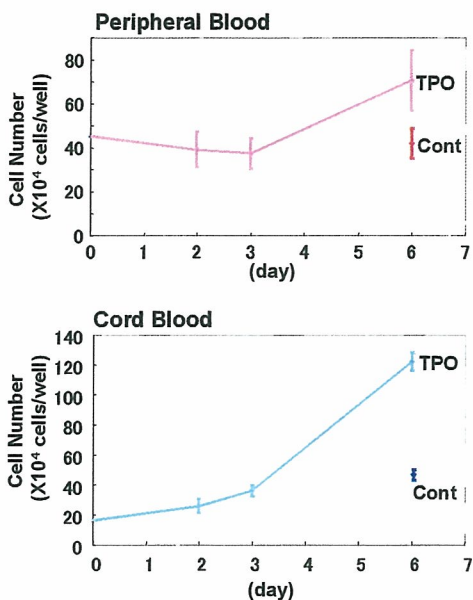


Fig.29 CD31強陽性細胞出現に対するTPOの効果(1)

A. TPO存在下のAC133陽性細胞の経時的な増殖変化



B. 培養3日目のAC133陽性細胞におけるTPO受容体、CD31、AC133の発現

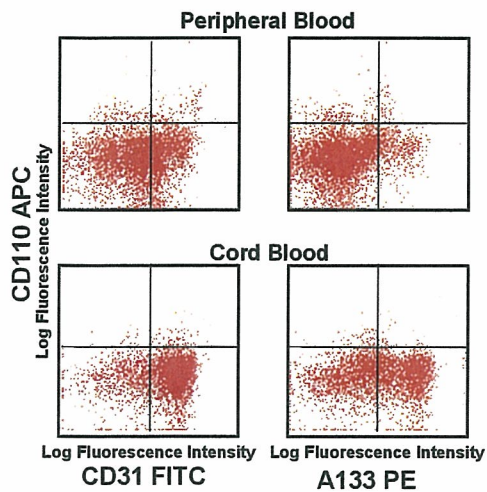


Fig.30 CD31強陽性細胞出現に対するTPOの効果(2)

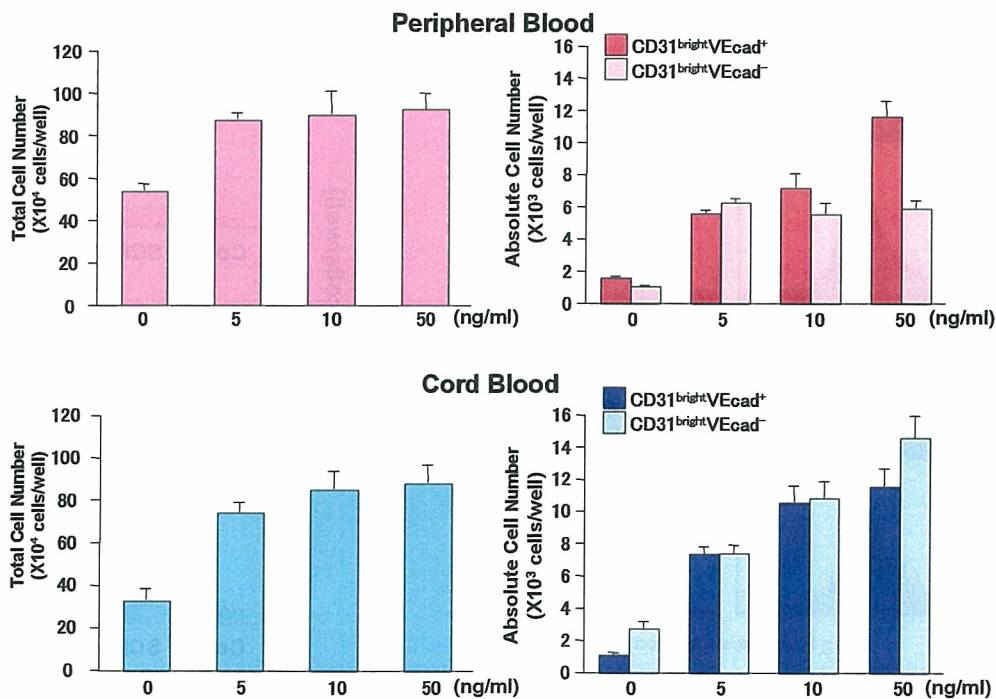


Fig.31 CD31強陽性細胞出現に対するTPOの効果(3)

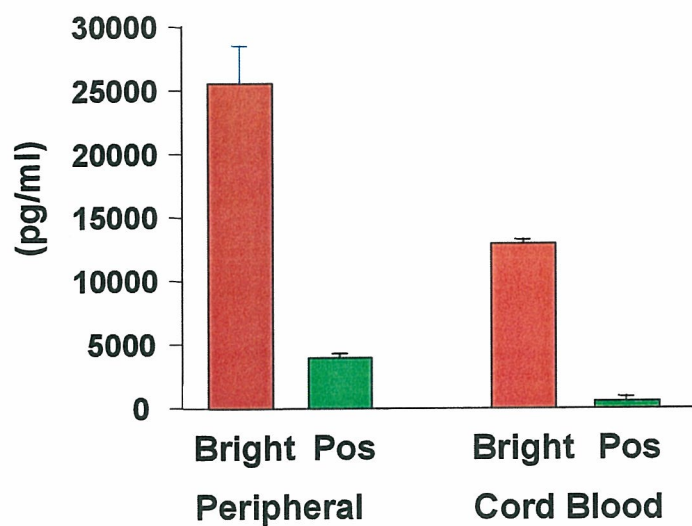


Fig.32 CD31強陽性細胞とCD31陽性細胞のIL-8産生の比較

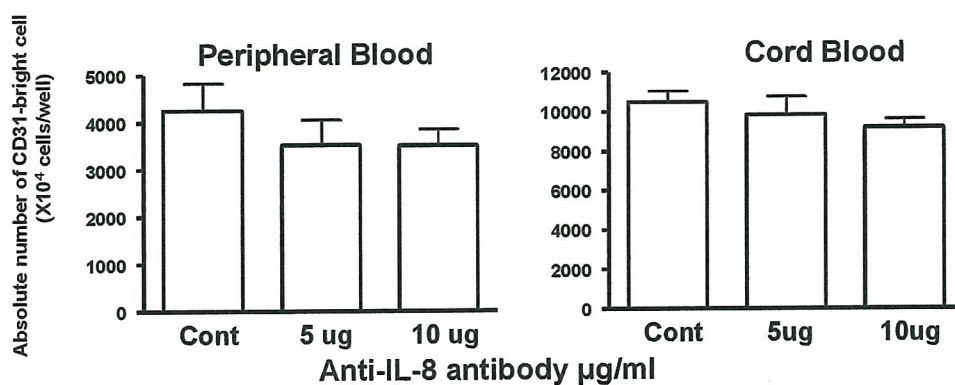
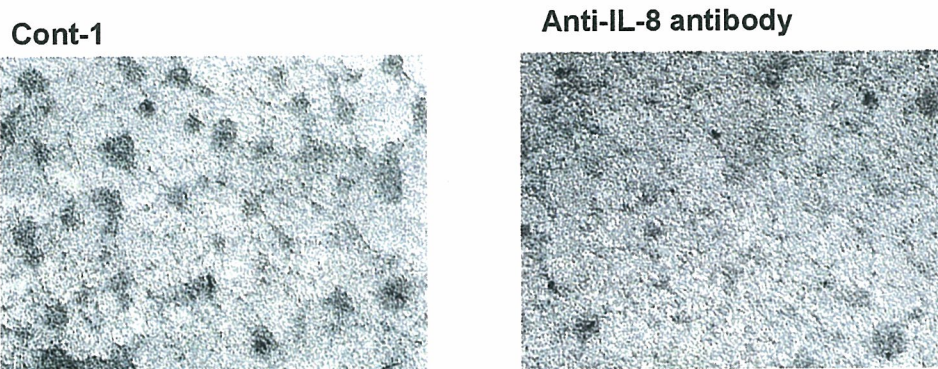


Fig.33 EPC誘導に対する抗IL-8抗体の効果

全血よりLymphoprep tube
を用いて単核球画分を分離

↓

FNコートプレート上に播種し、
培養開始

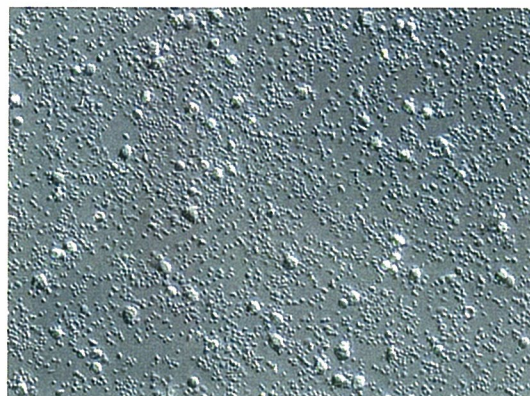
↓

Day1: 浮遊細胞を除去

↓

接着した細胞の培養を継続

Day 1



MIX-2 061205-2 50% .jpg

Fig.34 Fibronectinコートプレートに接着した細胞

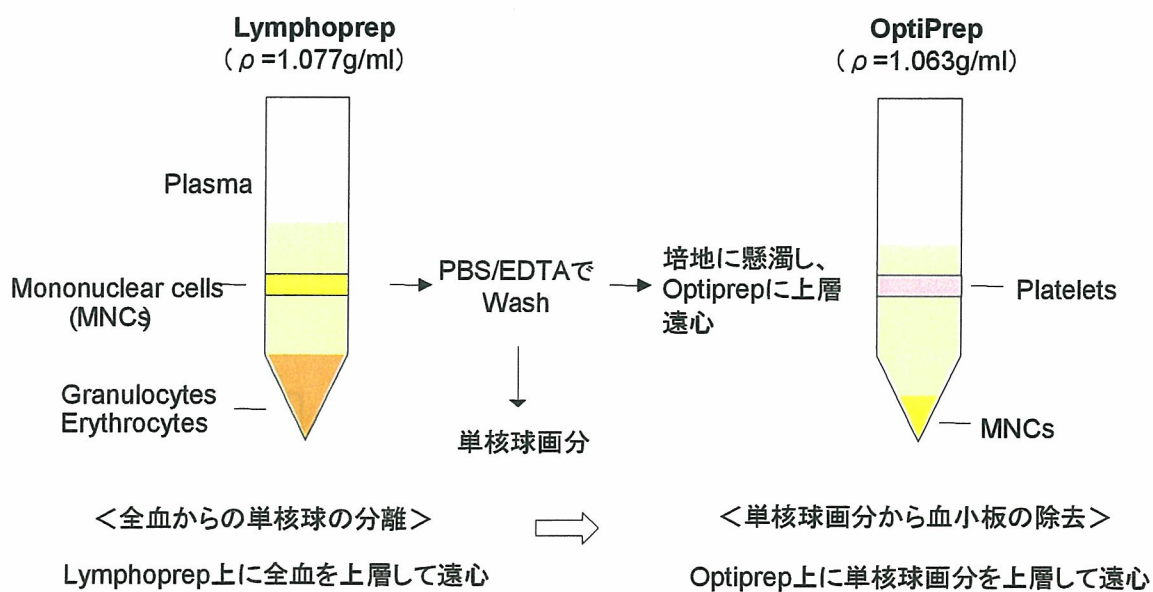


Fig.35 単核球画分の調製と血小板の除去

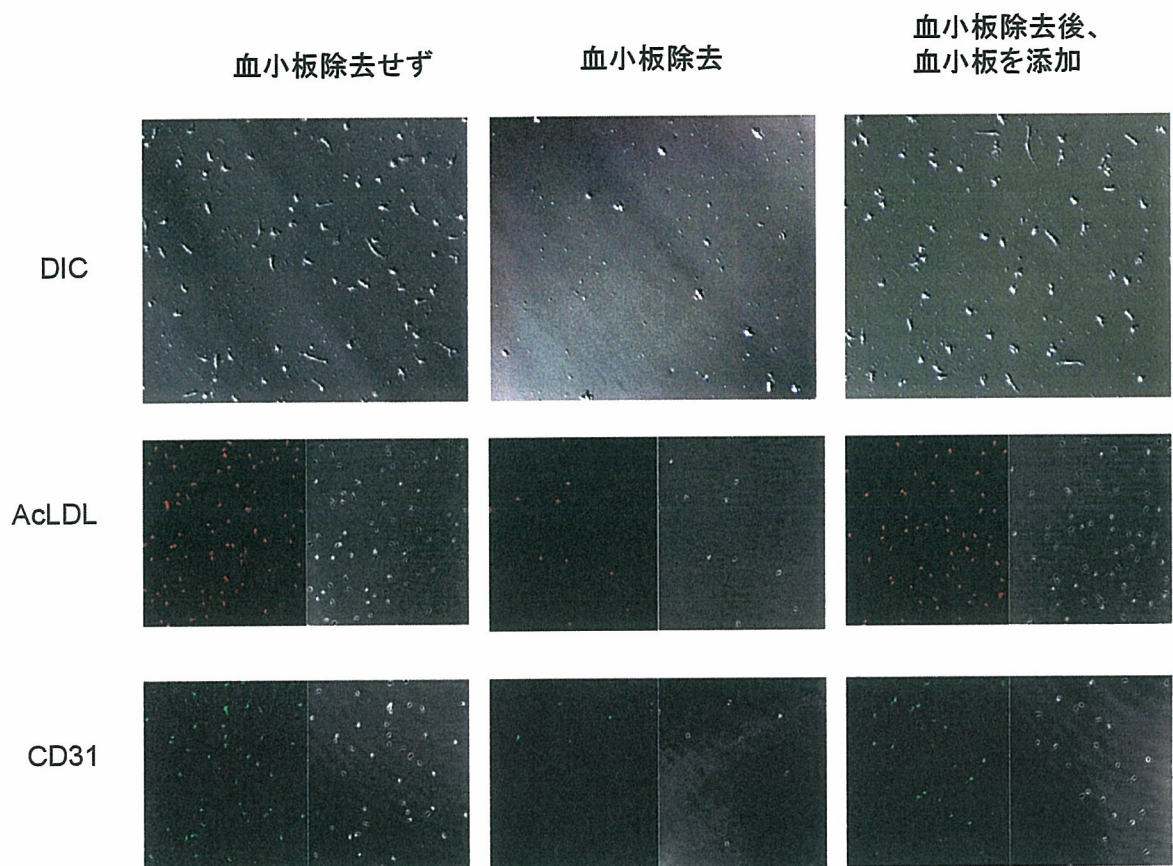


Fig.36 単核球からのEarly EPC誘導に対する血小板の影響 (Day6)

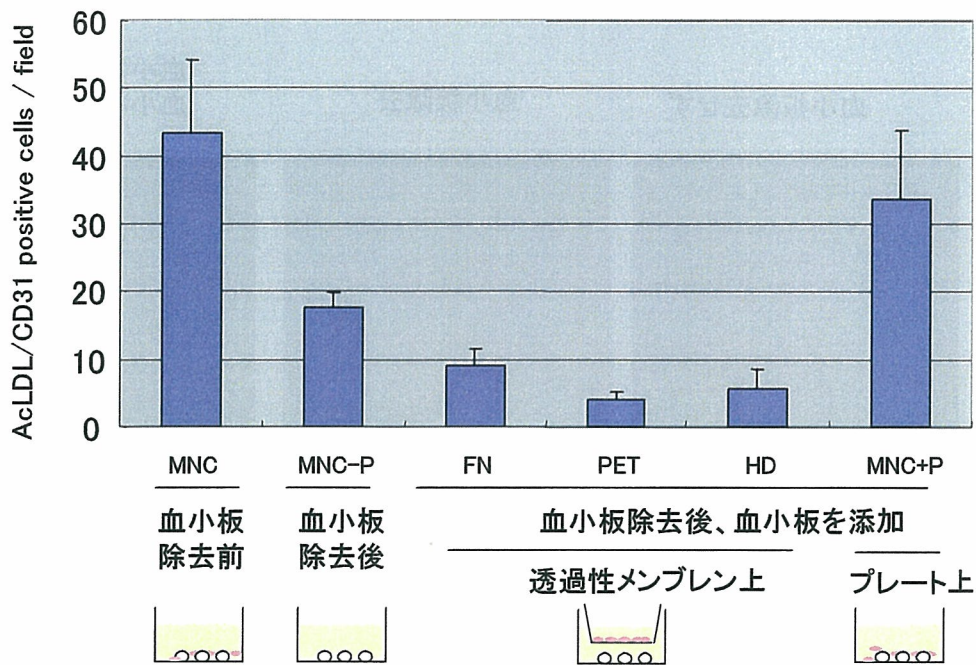


Fig.37 EPC誘導に対する血小板の影響

透過性メンブレン(ポアサイズ0.4 μ m)

FN: Fibronectinコート
 PET: 通常のメンブレン
 HD: ポア高密度

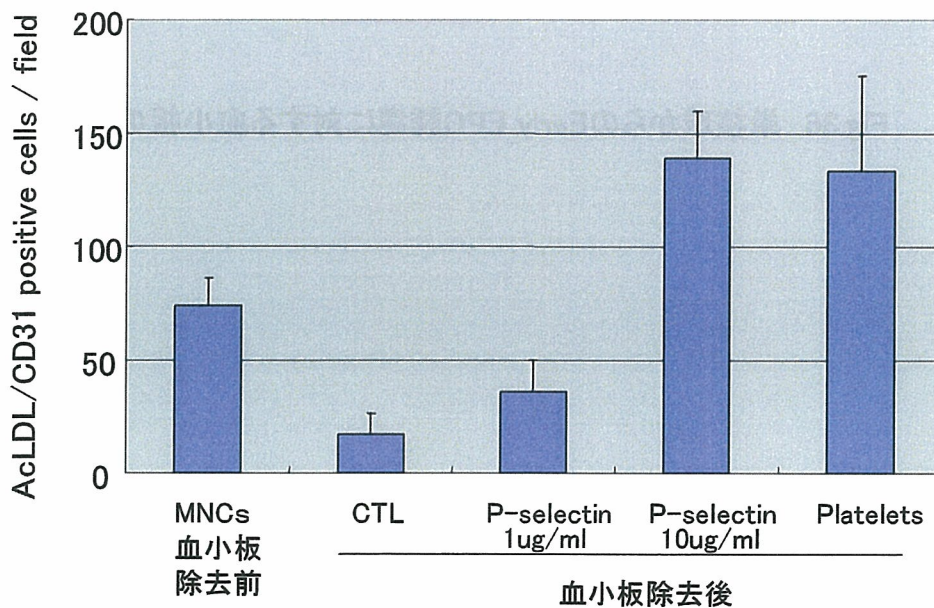


Fig.38 EPC誘導に対する組換えP-selectin(可溶型)の効果

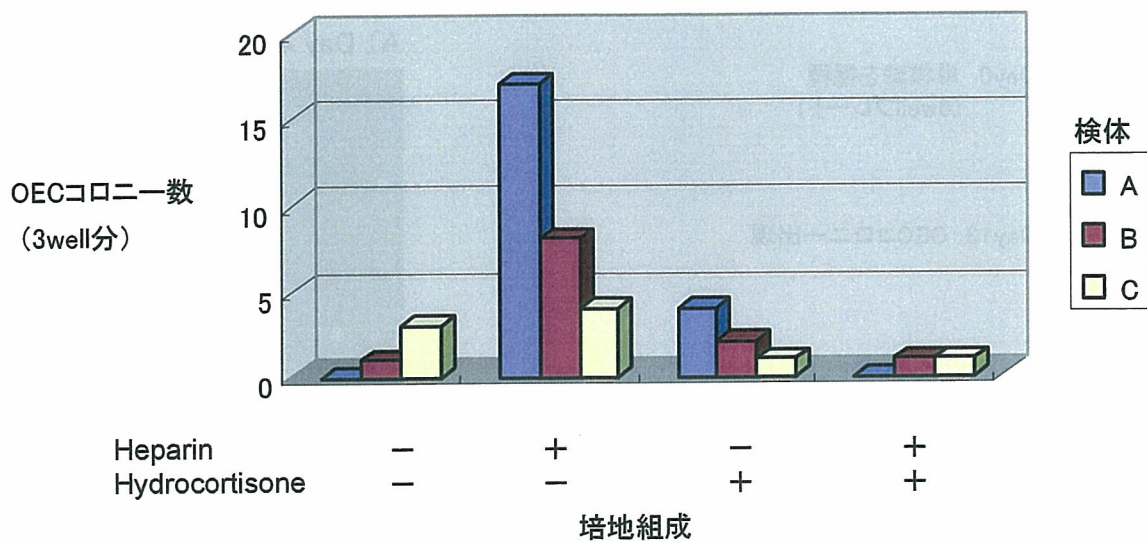
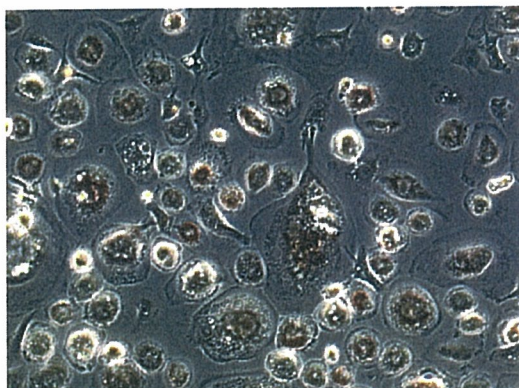
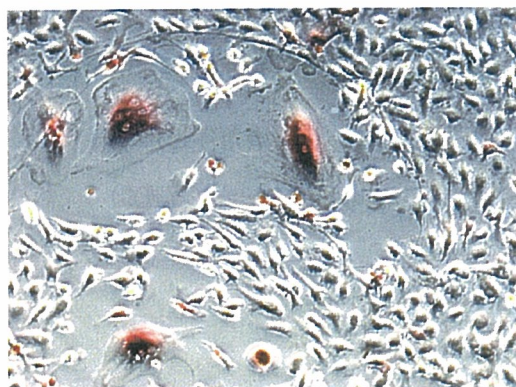


Fig.39 OEC出現に対する培地組成の影響(6wellプレートでの検討、3パッチ)



Oil Red O染色
(Adipocytes)



酒石酸耐性酸性ホスファターゼ活性染色
(Osteoclasts)

OECパッチ4
血小板を多量に添加したwell

Fig.41 単核球の長期培養で出現したOEC以外の細胞

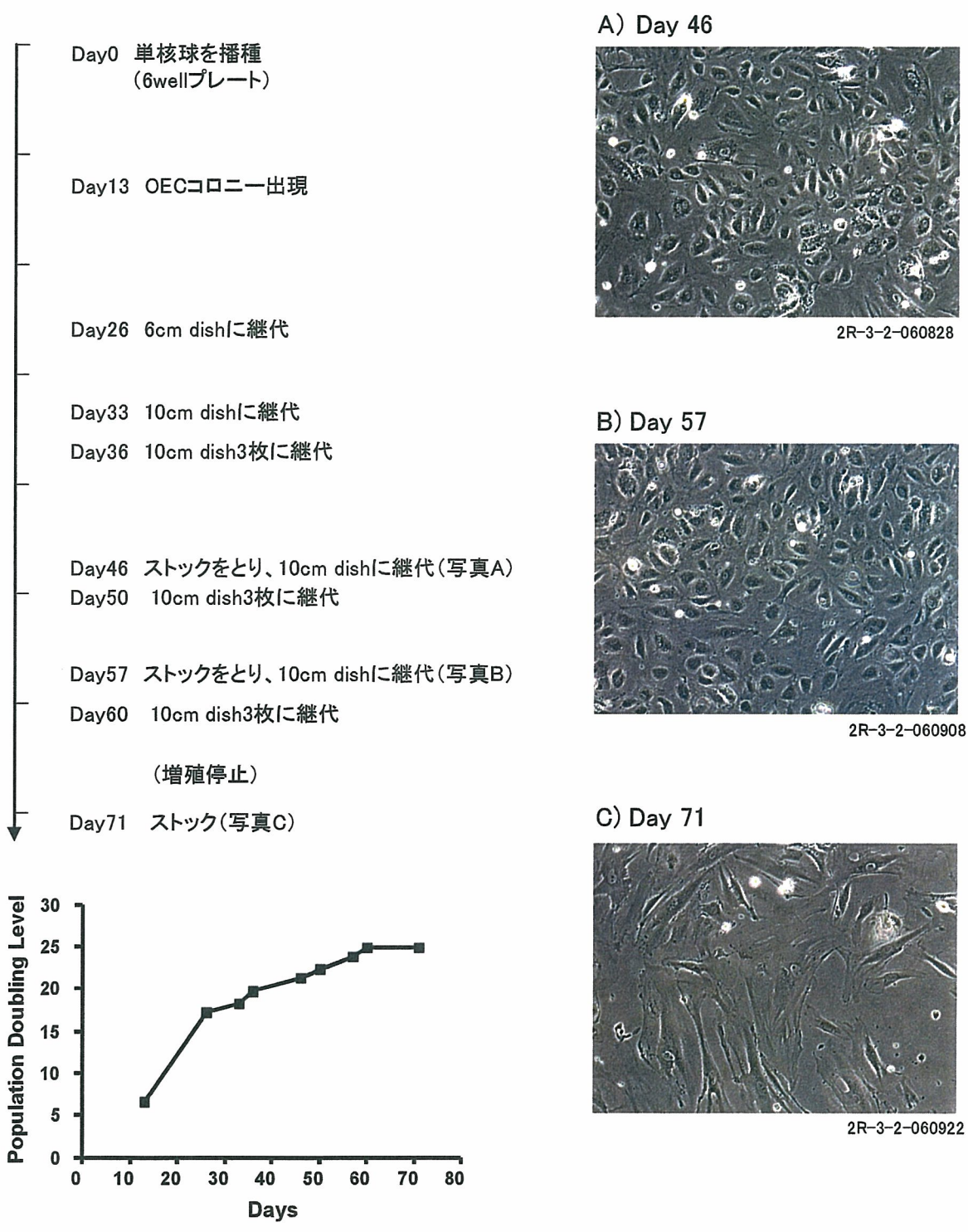
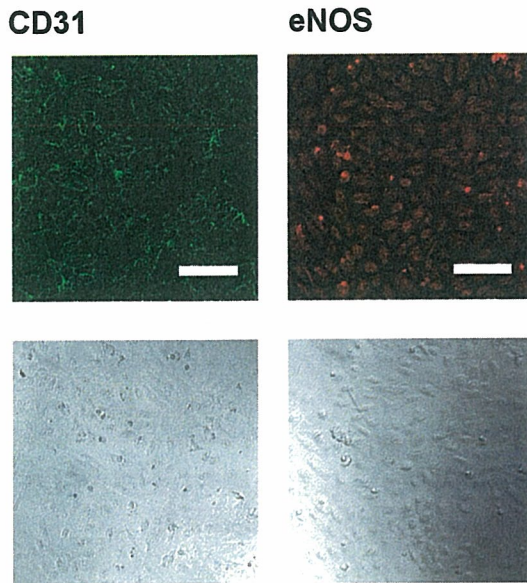


Fig.40 OECの増殖と形態の変化

A. 血管内皮細胞である同定



B. IL-8受容体発現

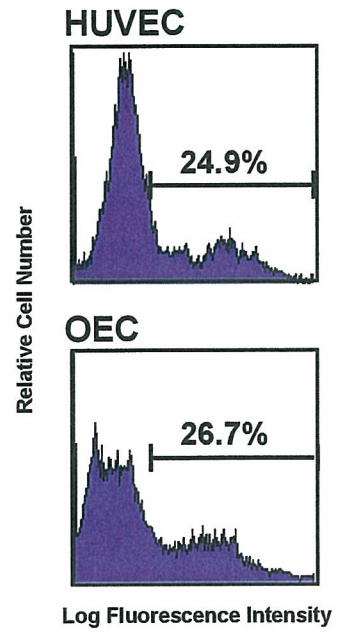


Fig.42 臍帯血由来OECが血管内皮細胞である同定とIL-8受容体発現

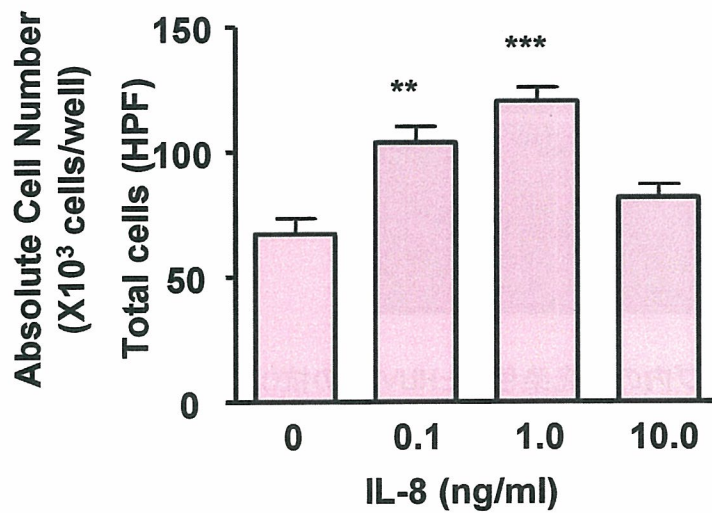


Fig.43 OECにおけるIL-8の遊走促進効果

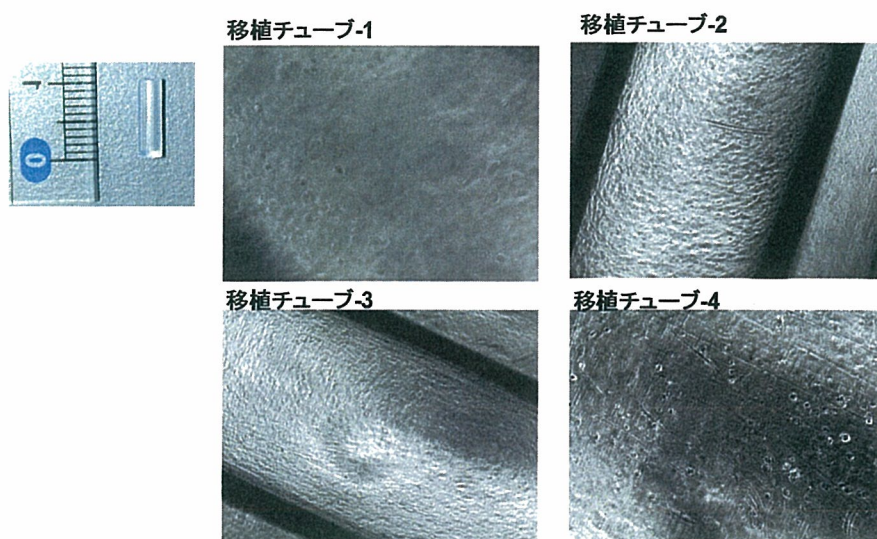


Fig.44 移植チューブ内のゲルに蛍光染色したHUVECを浮遊させ培養2週間後の光顕写真

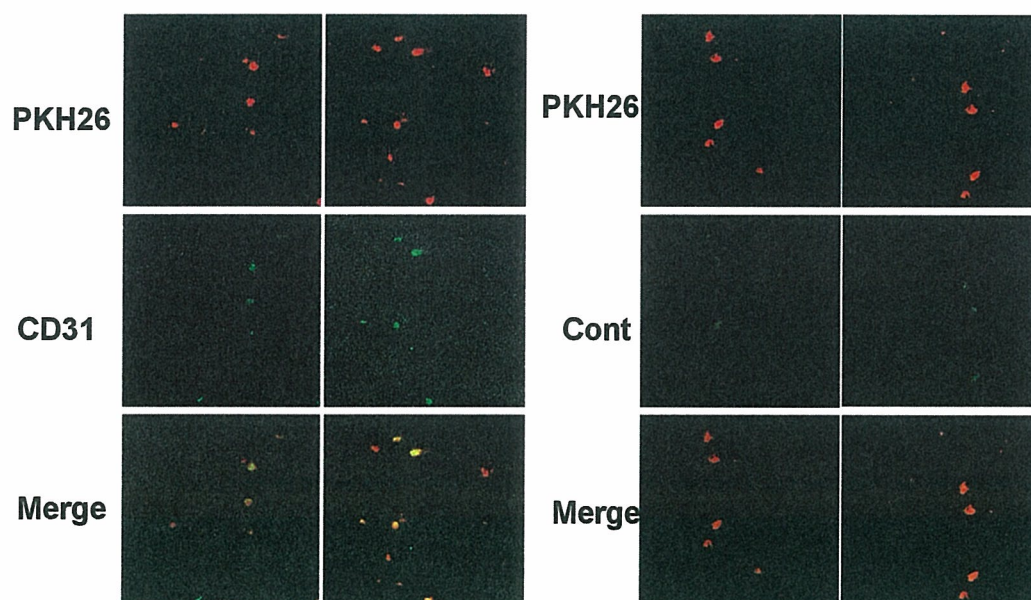


Fig.45 チューブ内の蛍光染色したHUVECの抗CD31抗体-FITCを用いた免疫染色

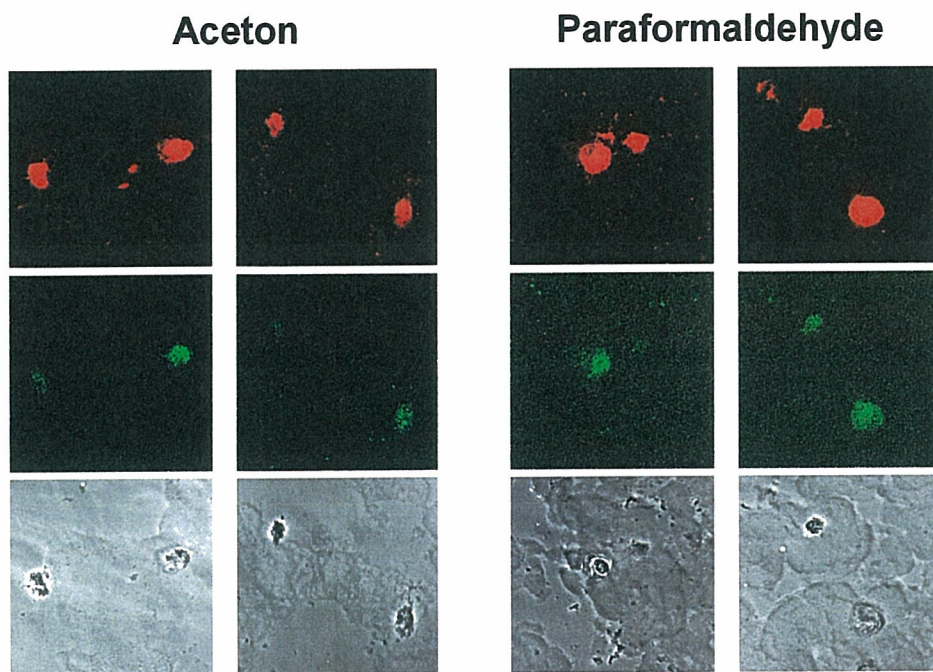


Fig.46 チューブ内のHUVECのアセトン固定とホルマリン固定の比較

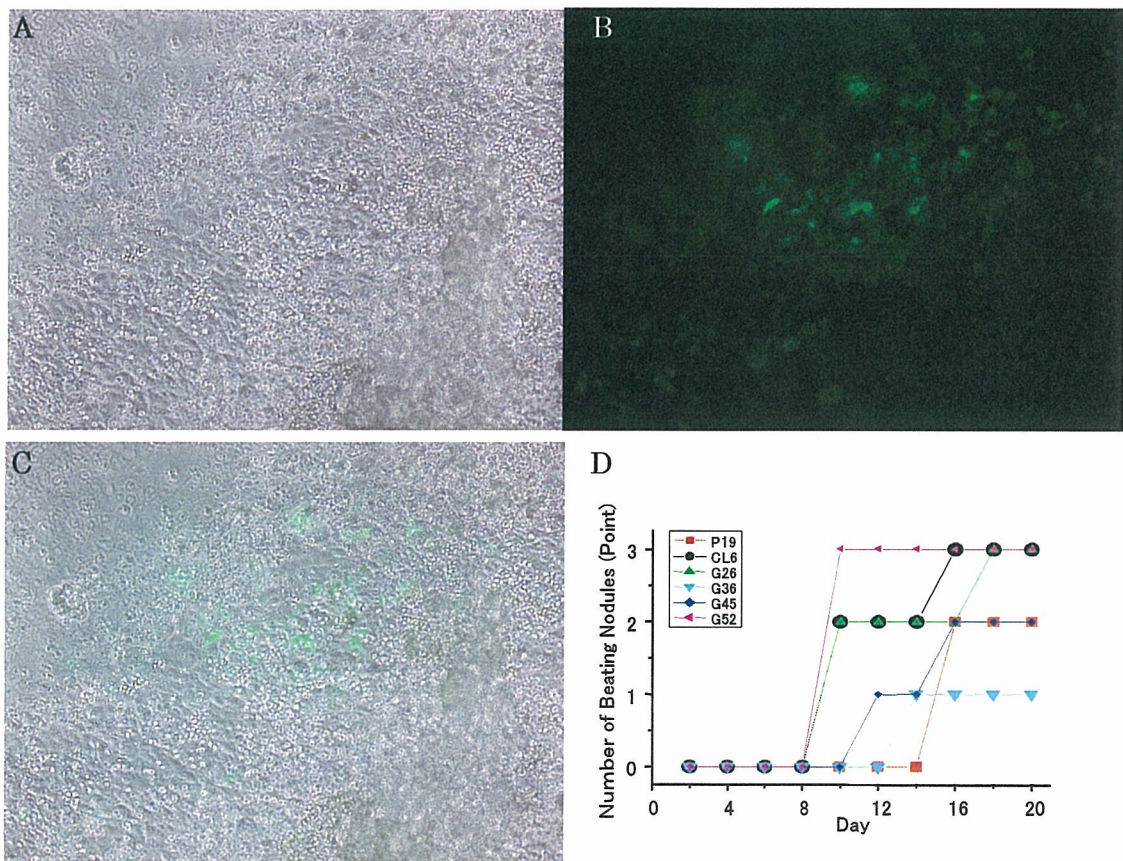


Fig.47 P19 由来細胞の心筋細胞分化

CL6G52 細胞の心筋細胞分化 (×10、BZ-8000 (KEYENCE)を用いて撮影した)

A: 分化誘導後 8 日目。自律拍動する小さな結節が認められた。

B: A と同部位の蛍光像。GFP の発現が認められ、心筋細胞に分化していることが確認された。

C: A と B との重ね合わせ像。

D: P19 由来細胞株の心筋細胞分化の定性的時間経過。各細胞株の自律拍動する小結節数の時間経過を示す。小結節が見られないものを「0」、6 穴細胞培養プレート 1 枚に対して 1 つ以上の小結節があるものを「1」、プレートのウェル 1 つに対して 1 つ以上の小結節があるものを「2」、顕微鏡の視野(×200)に対して 1 つ以上の小結節があるものを「3」とした。

